

# Society for Neuroscience 2016 参加報告

広域科学専攻生命環境科学系 修士2年 岡島未来（四本研究室）

「修士・博士課程海外渡航助成」の支援を受けて、2016年11月12日から16日にかけてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴで開催された Society for Neuroscience 2016 に参加した。この大会は、神経科学分野で世界最大の学会である北米神経科学学会が主催する年次大会であり、毎年約30000人の神経科学者が一堂に会して、最新の研究内容について発表・議論する。

私は、「Role of interhemispheric cortical connections in time perception: a case study with agenesis of the corpus callosum」という題目でポスター発表を行った。本研究では、脳梁無形成という先天的障害を抱えた患者における時間知覚の様相を検討した。ヒトにおいて、大脳は左半球と右半球から構成されており、左右の半球をつなぐ繊維が脳梁である。先天的な障害、あるいは後天的な手術によって脳梁を切断し、左右の大脳半球が分離した状態は「分離脳」と呼称され、分離脳研究のパイオニアであるロジャー・スペリーは1981年にノーベル生理学・医学賞を受賞した。

ポスター発表では、本研究に関心をもってくれた、分離脳研究に携わる多くの研究者たちと議論することができた。先天的な分離脳患者はそもそも稀な存在であるのに加えて、その多くは身体障害、知的障害、てんかん等との合併症を抱えており、実験に参加することが難しい。大会では、実験に参加可能な先天的分離脳患者に対して時間知覚に関する実験を実施した本研究について、その価値を非常に好意的に評価してもらえ、また示唆に富んだ多くのコメントを得ることができた。今回の経験を自身の研究活動に活かし、より一層精進していきたい。

